

2020年1月14日  
日興アセットマネジメント株式会社

## 「高金利先進国債券ファンド2(早期償還条項付)／愛称:オリーブ2」 分配金のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ご愛顧いただいております「高金利先進国債券ファンド2(早期償還条項付)／愛称:オリーブ2」は、2020年1月10日に決算を行ないました。

本資料では、当期の分配金についてご報告するとともに、マザーファンドの運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドのコメントをご紹介します。

### 当期の分配金と設定来の基準価額推移



#### ＜当期の分配金＞

分配金 (税引前、1万口当たり)	0円
基準価額(1万口当たり) 2020年1月10日現在	9,022円

#### ＜基準価額の推移＞



※ 基準価額は信託報酬(年率1.364%(税抜1.24%))控除後の1万口当たりの値です。

今後の分配金額につきましても、引き続き、収益分配方針に基づいて決定してまいります。

今後も、当ファンドをご愛顧くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

- 上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。
- 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

■当資料は、日興アセットマネジメントが「高金利先進国債券ファンド2(早期償還条項付)／愛称:オリーブ2」の運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。

■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

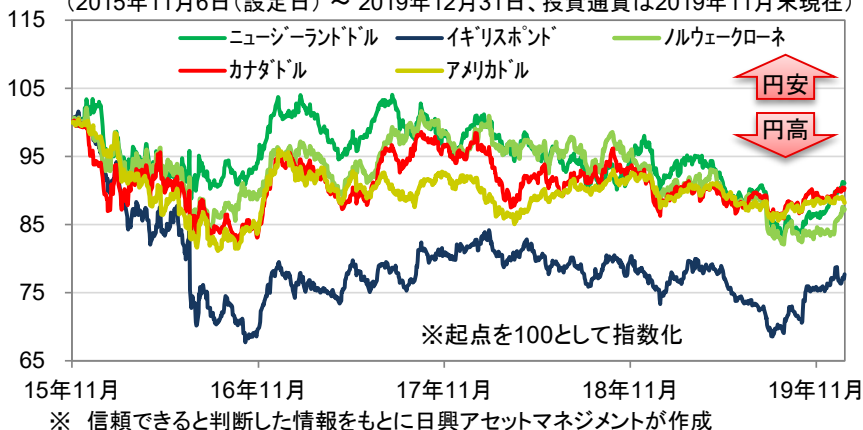
## 運用概況と投資国の見通しについて



- 当期(2019年7月11日～2020年1月10日)の金融市場では、主要先進国の緩和的な金融政策が長期金利の低下(債券価格は上昇)要因となった一方、米中問題やEU(欧州連合)離脱問題に進展がみられたことなどから市場心理が改善し、昨年秋以降、長期金利は上昇基調(債券価格は下落)となりました。
- オーストラリアでは、中国の景気減速が重石となり、昨年6月以降、利下げが続きました。一方、英国ではEU離脱問題に一定の目途がついたことなどから、10月に豪ドル建て債券を売却し、英ポンド建て債券を組入れました。その後12月には、総選挙で与党・保守党が勝利し、今年1月末のEU離脱の可能性が高まったことで、英ポンドは上昇しました。今後はセンチメントの回復から設備投資の増加が見込まれるほか、堅調な労働市場や抑制的なインフレ率が引き続き同国経済を支えるとみられ、投資比率の見直しも視野に入れています。
- 米中通商協議の「第1段階の合意」に向けた取り組みが進展したことで、市場心理は改善傾向にあります。FRB(米連邦準備制度理事会)は昨年、3度の利下げを行ないましたが、今後の金融政策はデータを注視して行なう姿勢を強調しています。世界の製造業が減速する中でも、米国の消費は底堅い動きを示しており、市場で囁かれる景気後退への悲観論は過剰であると考えています。米長期金利は今後数カ月の間に徐々に上昇すると見込まれ、その間、現在の緩和的な金融環境が同国の成長を押し上げるとみています。
- 世界的な貿易摩擦がカナダ経済の下押し圧力となっているものの、今年初頭に米国議会を通過するとみられるUSMCA(米・メキシコ・カナダ協定)が、景況感や貿易を押し上げる可能性があります。世界的な先行き不透明感を背景とした同国の景気減速は、緩和的な金融政策と、それに伴う借入コストの低下が国内需要を支えることで部分的に相殺されるとみられ、2020年には回復が見込まれています。
- ノルウェーの中央銀行は昨年9月に利上げを行なって以降、政策金利を1.5%で据え置いており、12月の会合では当面の金融政策の維持を示唆しました。経済指標は強弱まちまちで、製造業が伸びを示す一方、工業生産や消費は弱含みました。ニュージーランドの経済指標については総じて弱含んでおり、2019年7-9月期のインフレ率は予想を上回ったものの、足元の景況感指数は緩やかな景気減速の可能性を示唆しています。こうした中、同国中央銀行は11月、市場の利下げ予想に反し、政策金利を1%に据え置きました。

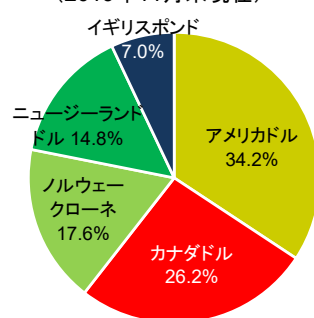
### <投資通貨(対円レート)の推移>

(2015年11月6日(設定日)～2019年12月31日、投資通貨は2019年11月末現在)



### <実質通貨別投資比率>

(2019年11月末現在)



※ 上記は当ファンドの対純資産総額の比率です。比率にはその他があるため100%とならないことがあります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

上記は、当ファンドの主要投資対象である「高金利先進国債券マザーファンド」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが「高金利先進国債券ファンド2(早期償還条項付)／愛称:オリーブ2」の運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。
- 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。